

900-562A		プロセス参照モデルを利用したプロセス詳細化技法	
プロセス参照モデル		現状プロセスの調査・記述【30分】	
BCORレベル3プロセス	sD3.01 RFP/RFQの入手と回答	プロセスタイプ	sD3.01-1
レベル4プロセス番号	sD3.01-1	関連プロセス	RFP/RFQの入手・確認
レベル4プロセス名称	RFP/RFQの入手・確認	ステークホルダ	顧客（既存・見込）
①目的・機能	顧客から提案依頼(RFP)あるいは見積依頼(RFQ)を受領して、目的、技術要求(機能要求、非機能要求)、価格要求、付帯的要求、その受入適合性(上段)手作業含めた全標準、制約条件(品質、コスト、期日)など、要求の網羅性と内容を確認するプロセス。取引対象でない顧客の場合には、見積り拒否の回答、または取り扱可能なチャネルの紹介を行う。	②インプット0	
②インプット1	提案依頼(RFP)/見積依頼(RFQ) (顧客)	②インプット2	顧客情報<基本>(sED.07-1) 顧客情報<流通経路>(sED.07-2) 顧客情報<与信履歴、信用、ランク等>(sED.07-3)
③アウトプット0		③アウトプット1	(顧客から受領・確認した)提案依頼(RFP)/見積依頼(RFQ)(sD3.01-2、sD3.01-3)
④コントロール(ルール)	提案・見積書作成ルール(sED.01-1) 顧客チェック基準(sED.07-1) チャネル選択基準(sED.07-2) RFP/RFQチェック基準<共通、セグメント別>(sED.01-1)	④コントロール(財務報告)	
⑤コントロール(法規制)		⑤コントロール(組織・人)	販売部販売課

参照モデルのプロセス機能は……ですが、現在はどうなっていますか？

モデルのインプットは、……ですが、現在、どのようなインプットがありますか？

モデルのアウトプットは、……ですが、現在、どのようなアウトプットがありますか？

ユーザが述べた問題・課題は赤字で記述しておく

モデルの業務ルールは、……ですが、現在、どのような業務ルールがありますか？

この例では、ここまでの所要時間は20分

プロセス参照モデルのプロセス構成要素を参照して、そのプロセス構成要素、すなわち、プロセス機能、システム機能、インプット、アウトプット、業務ルール、担当組織などを詳細化する技法を説明したもの。同時に、プロセス課題も抽出できることが多い。

その例として、ユーザを集めたワークショップにて、プロジェクターを利用したプロセス構成要素の調査・記述の手順を説明。

### 1. プロセス参照モデルのレベル4プロセス詳細記述書を準備

プロセス参照モデルに付属したレベル4プロセス詳細記述書を準備します。プロセス参照モデルがなければ、何らかの方法で仮説を設定して臨みます。仮説の準備なしで調査してはなりません。

### 2. プロセス構成要素ごとに参照モデルの内容を説明

「モデルの内容は……となっていますが、現状はどうなっていますか」と質問していきます。

### 3. 現状の説明を記録

ユーザの回答を上記例のように参照モデルの右側に記入します。ユーザが複数人の場合には、メモ欄にユーザ名と内容を記録しておき、後で整理します。この際にレベル4プロセス課題も出てくる場合がありますので、これを色を変えて記録しておきます。たとえば、「このルールが個人任せになっているから、この前……が起きた」とか。

### 4. 記録内容を整理

記録メモを整理して、プロセス構成要素ごとに記入します。

### 5. 整理した内容をユーザに確認

プロセス構成要素ごとに整理した内容を説明して確認します。

通常は、ワークショップで1～3を実施し、記録メモを持ち帰り4を実施、次回のワークショップにて5を実施します。